

■-----■
KRA 不定期通信 / コマツ・リサーチ・アンド・アドバイザー (代表: 小松 啓一郎)
■-----■

〈今号のメニュー〉

- 【1】はじめに
- 【2】小松 啓一郎からのメッセージ:「国際情勢への危機感の欠如に危機感」
- 【3】オピニオン:「欧州の移民問題」
- 【4】KRA ホームページの新着情報
- 【5】ロンドンつれづれ雑記帳 :「水無月に考えたこと」
- 【6】事務局からのお知らせ

【1】はじめに

世界各地で天災・人災が次々に襲い、2011 年はまさに歴史の転換点とも言えるような激動の年となっています。

今回、新しい試みとして、KRA とご縁のある方々に KRA の活動内容や問題意識の一端を知っていただく
目的で、ニュースレターのメール配信を始めます。

とりあえずは月刊や週刊といった縛りを設けず、内容も適宜変更しながら不定期にお送りするつもりで、
『KRA 不定期通信』と呼ぶことにしました。

ご意見・ご質問などありましたら、どしどし事務局 (news@komatsuresearch.com) までお寄せ頂ければ
と存じます。

お寄せ頂いた内容は、お差し支えない範囲で本ニュースレターの中でも適宜紹介させて頂きますので、
掲載の可否もお書き添え頂ければ助かります。面白い情報や忌憚ないご意見等、大歓迎！！

【2】小松 啓一郎からのメッセージ :「国際情勢への危機感の欠如に危機感」

http://komatsuresearch.powweb.com/wordpress/wp-content/uploads/2017/06/KRA-Interview_Crisis-which-crisis.pdf

KRAの小松啓一郎代表は、東日本大震災の1週間後に日本入りして2週間ほど滞在し、国内の現状を目の当たりにしてきました。その後2カ月を経て、今回5月にも約1カ月の出張で、表面上は少し落ち着きを取り戻したようにも見える日本の様子をつぶさに見て参りました。日頃ロンドンに本拠を置く日本人として、未曾有の災害後の日本の様子はどうか、一番強烈に感じたことは何か、今日本人に伝えたいメッセージは何か、ロンドンへ戻ったばかりの小松啓一郎に聞きました(文責:井上)。

今回の東日本大震災は未曾有の規模と言われ、およそ防ぎようのない「想定外」の災害だったと説明されています。

しかし、歴史を遡り、平安時代の貞観(ジョウガン)11年(西暦869年)に三陸沖を震源地とするマグニチュード8クラスの大地震と津波が発生し約1000人の死者を出していたという事実を、今から2年前に原子力安全保安員が指摘し、詳細を調べるべきと主張していたという事実が明らかになっています。

確かに、株主・ステークホルダーへの説明責任を負っている一民間企業が1000年余りに一度の大災害を想定して備えをする事は難しいかもしれません。しかし、これだけ天災・人災の続く今の社会では、株主・ステークホルダーであれ、経営者であれ、敢えてこのようなことを持ち出す発想やスケールの大きさ、想像力が求められるようになってきているのではないかと思います。

震災後3カ月を経た今でも、家を失い避難している人が10万人に上る現状で、「未曾有の」震災・津波、そして原発をめぐるニュースが報道の中心になっているのはやむを得ないことでしょう。しかしながら、その煽りを受けて、もともと少なかった海外のニュースが現在殆どゼロになってしまっていることには、強く不安を感じました。

一方、目を海外に転じると、日本の原発被害については時折続報が伝えられるものの、地震・津波に関しては「既に過去の事件」といった感じとなり、ニュースで取り上げられることはもう殆どなくなっています。

この国内外のパーセプション・ギャップ(認識のズレ)が、大きな問題に発展する危険性を感じます。たとえば、リビアのカダフィ政権に対する英・仏を中心とするNATO軍の空爆が3カ月続いています。石油資源地帯である中東・北アフリカの紛争に今後も欧米が軍事介入を深めると、日本にも経済面での協力(つまり現地の「復興支援」や「民主化支援」という名の「戦費」)を求めてくる公算が非常に高くなってきます。その場合、日本では激しい反撥が巻き起こる事が予想され、欧米や湾岸諸国との間であつれきが生じる恐れがあると懸念されます。

日本国内では福島原発がいまだに予断を許さない状況で原子力発電の将来に不確定要素が増える中、夏場の15%節電目標の設定で、とくに製造業に与える影響が心配されます。この懸念は今夏以上に来夏にさらに高まるとの見方さえあります。日本の火力発電のうち中東からの石油・天然ガスへの依存度が約4分の1と推計される状況下、中東・北アフリカ危機の余波で中東からの石油・天然ガス輸入が大幅縮小または停止という事態にでもなれば、そのダメージは計り知れません。それにもかかわらず、東日本大震災後の日本国内で火力発電についての懸念が殆ど指摘されていないことは驚きです。

また石油に限れば、これまでの供給先多角化努力はあるものの、中東への供給依存度は依然として9割前後と高水準にあります。

名目 GDP ベースでは中国が日本を抜いて世界第 2 位の経済大国になったとの報道も一部にありましたが、実質 GDP ベースで見れば、日本は依然、世界第 2 位の経済大国です。その日本発の世界経済危機が発生したりすれば、リーマン・ショックからまだ完全に立ち直っていない欧米諸国を直撃することにもなりかねません。

わたしたちがしなければならないのは、まず海外に対して日本の地震・津波 の被害が今でもいかに深刻かを発信して理解を得る努力です。そして、日本国内においては、世界の大エネルギー地帯での危機的状況がすぐそこまで来ているの だという事実を認識し、決して対岸の火事ではない中東・北アフリカ情勢の重要性を訴えていく必要があるのではないのでしょうか。

【3】 オピニオン:「欧州の移民問題」

http://komatsuresearch.powweb.com/wordpress/wp-content/uploads/2017/06/KRA-opinion_EU-immigration.pdf

一旦姿を消した外国人が徐々に町へ戻ってきている。今回の大震災は日本人と外国人の関係を考えるのに重要な経験だったかもしれない。

「移民問題」にはいろいろな意味があるが、一つに高齢化対策としての側面がある。EU における経験を振り返れば、現役労働力を補うため移民労働力を積極的に受入れた経緯がある。ひところは成功したように見え、多様な文化を寛大に受け入れる欧州社会として評価されていた時期もあった。

しかしながら、リーマン危機に端を発する世界的な景気の落ち込みで、各国とも失業率が上昇。自国民の職を奪う移民労働者に対する風当たりが強くなり、移民排斥を訴える極右政党が支持を伸ばしてきている。

欧州の場合、EU 新規加盟国の東欧諸国からの移民急増も大きなファクターとなっている。東 欧諸国は小国の集まりというイメージがあるが、後ろに控えるロシア、ウクライナ、ベラルーシ等も含め東欧・ロシア方面からの大人口移動の強い社会的圧力が ある。これは極東に位置する日本で、仮に東南アジアや中国が抱える大人口が大量流入することになった場合に感じられる人口圧力に匹敵すると言っている。

さらに、とくに今年に入って問題が鮮明になってきたのが欧州人とイスラム教徒との関係である。中東・北アフリカ紛争の影響でリビア、チュニジアからの難民が南欧に押し寄せ、大きな社会問題となっている。

フランスにおけるブルカ禁止(今年 4 月 7 日から実施)、オランダにおけるコーシャ禁止(現在議会で法案審議中)など、異文化に対する寛容(トレランス)がなくなってきている。英国でも移民に対する英語力テストの厳格化や、移民・留学生ビザの要件強化など、流れは異質なものに非常に厳しい方向に動いている。

このような諸問題に次々に直面する欧州ではあるが、ポジティブ・ネガティブ両面で挑戦を続けざるを得ない状況に置かれている。

これまでの欧州移民政策を「成功」と手放しで評価するのは単純に過ぎる。日本でも高齢化対策の一環として外国からの移民労働者を積極的に受入れるべきだとの議論を聞くにつけ、欧州モデルは必ずしも成功していないことを現状認識として踏まえる必要がある。

とはいえ、単純に「移民を受入れるべきでない」ということにもならない。むしろ、日本独自の価値観・考え方で新たな突破口を切り拓く覇気が求められる。それが成功すれば、欧米諸国も日本から学ぶ。このように日本の 発明家気質的な能力も積極的にアピールしていくことが将来の生き残りを目指すために不可欠ではなからうか。

(小松 啓一郎)

▼参考レポート

- 英国のスキル不足と外国人労働者 | 2011 年 6 月 20 日 | http://komatsuresearch.powweb.com/wordpress/wp-content/uploads/2017/06/KRA-report_UK-skill-and-immigration-workers.pdf
- 英国の移民数制限措置 | 2010 年 12 月 10 日 | http://komatsuresearch.powweb.com/wordpress/wp-content/uploads/2017/06/KRA-report_UK-immigration-regulation.pdf

【4】 KRA ホームページの新着情報 ★一度のぞいてみて下さい

▼オピニオン

国際情勢を見る視点・考えるヒントなどを載せています。

- グローバル化と見えない敵との戦い(1)情報オーバーロードとカオスの時代 | 2011 年 6 月 23 日 | http://komatsuresearch.powweb.com/wordpress/wp-content/uploads/2017/06/KRA-opinion_Globalisation-and-the-fight-against-invisible-enemies_01.pdf
- グローバル化と見えない敵との戦い(2)モノの安全性 | 2011 年 6 月 23 日 | http://komatsuresearch.powweb.com/wordpress/wp-content/uploads/2017/06/KRA-opinion_Globalisation-and-the-fight-against-invisible-enemies_02.pdf
- 「アラブの春」の陰に | 2011 年 6 月 23 日 | http://komatsuresearch.powweb.com/wordpress/wp-content/uploads/2017/06/KRA-opinion_Implications-of-the-Arab-Spring.pdf

▼レポート

- 米国の新中東・北アフリカ外交戦略 | 2011 年 5 月 20 日 | http://komatsuresearch.powweb.com/wordpress/wp-content/uploads/2017/06/KRA-report_US-MENA-policy.pdf

- 英国の中東政策と武器輸出 | 2011年3月8日 |

http://komatsuresearch.powweb.com/wordpress/wp-content/uploads/2017/06/KRA-report_UK-Cameron-the-arm-trader.pdf

昨年5月の英国総選挙のシリーズ報告をアップロードしました。保守党キャメロン首相が、英国では過去に殆ど経験のない連立政権という「実験」を選択するに至った経緯を追っています。政局で揉める日本で何かのヒントになればと思います。

【5】ロンドンつれづれ雑記帳:「水無月に考えたこと」

http://komatsuresearch.powweb.com/wordpress/wp-content/uploads/2017/06/column_Thoughts-in-June.pdf

英国に来た当初、雨でも傘をさす人が少ないのに驚いた。少々の雨は濡れたまま急ぎ足。傘を持ち山高帽で闊歩の英国紳士など、Big Bang 後間もないCityには見かけなかった。同じ頃、過去にミニスカートを流行らせた英国人が実は余りファッショナブルではないかとも思い始めた。真夏にコートやブーツ、真冬でもTシャツ、等。

その内、これは英国の天気に関係があるかと考えるようになった。(階級社会、当時の英国の政治・社会情勢等にも関わっていようが)

英国には日本の様な顕著な四季の変化がない。涼しい夏は、ざら。また、一日で雨や晴れ間が何度も交じる事も多い。これでは、コートや傘を持って出かけようか決め難い。

その英国の天気が近年変化してきた。夏が暑くなってきた。以前は日本の猛暑時にしか着なかった服を私はここ数年ロンドンでも着るようになった。去年のウィンブルドン、真新しいセンターコートの屋根が使われる事は殆どなかった。

今年もウィンブルドンの季節。蓋を開けたら、うすら寒い雨模様。落胆よりも、恒例のウィンブルドン日和かと諦めてしまうのは、英国生活が長くなってしまったからかもしれない。(6月22日記 | Chiyoko)

【6】事務局からのお知らせ

本メールの全文の転送については、許可不要です。

ご意見・お問い合わせ: news@komatsuresearch.com

調査・講演関係のお問い合わせ: info@komatsuresearch.com

配信解除: 当メールへの返信でご連絡下さい。

- 本メールおよびリンク先のホームページに掲載した内容については可能な限り正確を期していますが、万が一誤謬があった場合、コマツ・リサーチ・アンド・アドバイザー（以下 KRA）は一切の責任を負いません。
- 本メールおよびリンク先のホームページに掲載した内容は、各執筆者の見解に基づき作成されたものであり、KRA の統一的な見解を示すものではありません。情報や見解は、予告なしに変更することがあります。
- リンクしている第三者のサイトのコンテンツに関しては、KRA はいかなる責任も負いません。
- 本メールおよびリンク先のレポートの内容を利用したことで発生したトラブルや損害についても、KRA は一切責任を負いませんのでご了承下さい。